

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年2月14日作成)

委員会名	都市環境デザイン実践小委員会		主 査 名：浅輪 貴史
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)		委員長名：大岡 龍三 主 査 名：竹林 英樹
設 置 期 間	2023年4月 ～ 2025年3月		
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、気候変動適応やカーボンニュートラル、SDGs への対応、ニューノーマルなどの都市環境・都市設備に関する共通の課題について研究事例や社会での実践例を収集し議論を深めるとともに、具体的な都市環境デザインに展開してゆくための方法について整理し、実践への方策を探ることを目標としている。そのために、毎年、都市環境デザインフォーラムを企画・開催し、他分野の有識者や本学会の会員等と意見交換を行い、その成果を取りまとめて公表してゆく</p> <p>初年度：気候変動適応やカーボンニュートラル、SDGs、ニューノーマルなどの都市環境・都市設備に関する共通の課題について研究事例や社会での実践例を収集するとともに、本学会や本委員会が取り組むべき都市環境と都市設備の共通課題を整理する。それを踏まえ、第11回都市環境デザインフォーラムを実施することで、関連分野の先端事例を学び、議論を通じて幅広い意見を収集する。</p> <p>2年度：前年度に整理をした都市環境・都市設備の課題点とフォーラムでの意見を集約するとともに、社会での良質な都市環境デザインの実践例を収集し、具体的な都市環境デザインに展開してゆくための方法について整理する。それらは第12回都市環境デザインフォーラムにて公表するとともに、幅広い意見を収集し、2年間の小委員会の成果を取りまとめる。</p>		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：浅輪貴史(東京工業大学) 幹事：熊倉永子(国土技術総合政策研究所)、川久保俊(法政大学) 委員：三坂育正(日本工業大学)、竹林英樹(神戸大学)、吉田聡(横浜国立大学)、田中貴宏(広島大学)、原英嗣(国土舘大学)、小柳秀光(北海学園大学)、増田幸宏(芝浦工業大学)、平山由佳理(ミサワホーム総合研究所)、熊倉永子(国土技術総合政策研究所)、佐々木澄(清水建設)、宮崎ひろ志(関西大学)、田中翔大(長崎総合科学大学)</p>		
設置WG (WG名:目的)			
2023年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第11回都市環境デザインフォーラム「グリーンインフラを活用した都市環境デザインの実践」(2023年12月11日開催) 参加者数 157名 『同名資料』
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会を3回開催し（いずれもオンライン開催）、都市環境デザインフォーラムのこれまでの10回を振り返ることで、都市環境デザインの実践に係わる都市環境・都市設備に共通する課題点や実践例を整理した。 2. 上記の議論を踏まえて、第11回都市環境デザインフォーラムの企画内容についての提案と、開催企画の取りまとめを行った。「グリーンインフラを活用した都市環境デザインの実践」をテーマに2023年12月11日にフォーラムを開催し、グリーンインフラを用いて良質な都市環境デザインを実現するための方策や具体的な効果について、ランドスケープや建築計画などの他分野の専門家を交え議論をし、その内容を取りまとめた。参加者も、当初120名を目標としていたが、対面とオンラインを合わせて159名の参加者があり、大盛況のフォーラムであった。 3. 第11回フォーラムの実施と反省を踏まえ、次年度の第12回都市環境デザインフォーラムの企画策定に向けた検討を開始した。 <p>いずれも、当初目標を十分達成できたと考えている。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. オンラインでの委員会も定着してきたため、特に大きな問題はなく進められている。

*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価
(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A (B) C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	第11回都市環境デザインフォーラムを計画通りに企画・実施をし、盛況となったため概ね計画通りの達成度と考えている。ただし、小委員会での議論の活発化と成果の整理等はさらなる改善もできるためB評価とした。

- 総合評価は4段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的评价・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。
- 提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」（1年目・3年目不要）
設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」（1年目不要）
設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」
設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」